100年経営の会　長寿企業イノベーション勉強会

長寿企業に学ぶ持続可能な経営モデルとは

100年経営の会（事務局＝日刊工業新聞社）は7月29日、都内で第15回通常総会を開いた。2025年度の事業報告・収支報告と、26年度の事業計画・予算を審議した。続いて、長寿企業イノベーション勉強会「長寿企業に学ぶ『持続可能な経営モデルとは』」を開催。第7回100年企業顕彰「優良100年企業表彰」を受賞した小名木川ギヤー（東京都江東区）と赤見製作所（東京都豊島区）、新規入会企業のユニコーンズホールディングス（東京都葛飾区）が経営理念や課題への取り組みなどについて講演し、経営者らに長寿経営への指針を示した。

基調講演

「家業」からのさらなる成長の歴史



神戸大学大学院 経営学研究科教授
吉村 典久 氏

経営戦略論や企業統治が専門で、最近は日本企業がどのように生まれ、成長してきたのか研究している日本を代表する企業の成り立ちを調べると、家業を基盤として発展してきた企業が少なくない。そして100年企業へ成長するには、家業をそのまま守るのではなく世代ごとの進化が不可欠であると分かる。成長の転機は事業を「社会的な存在」として再定義できるかどうかにある。

重要なのは、家業に蓄積された暗黙知を形式知へと転換し、理念や価値観、技術基準を組織として共有することだ。そして家業の強みを核にしながら事業領域を広げる「関連多角化」が成長の鍵となる。時代の変化に応じて柔軟に〝衣替え〟できる企業が長く続く。

象徴的な事例がブリヂストンだ。仕立物屋から始まり、足袋・地下足袋で磨いたゴム技術を深掘りし、自動車普及という社会変化を見据え、タイヤ事業へ進出した。家業の強みを新たな分野へ展開したことが世界的企業への成長につながった。

家業は古いものではなく、未来の成長を生み出す源泉だ。ぜひ、家業の中に眠る可能性、強みや蓄積を改めて見直し、そこから何を生み出せるのか考えていただければと思う。長寿企業には、守るべきものを守りながら変化に挑戦をする姿勢が求められる。

第７回100年企業顕彰受賞企業講演

技能者育成「人の力で未来をつくる」



小名木川ギヤー社長
岩﨑 真和 氏

当社は1920年創業の歯車メーカーで、現在106年となる。二度の工場焼失など幾度の困難を乗り越え、81年には閉鎖されていた歯車工業会の旋盤工場を譲り受け、現在の生産体制を築いた。主力は建設機械向けの歯車製造で、大手建機メーカー向けが売上の約95%を占める。

長寿企業としての歩みを支えてきたのは、時代の変化に応じた技術革新だ。NC（数値制御）機やロボットなど新規機械の導入を常に進めながら、特殊製品では熟練技能者による高度な加工技術を維持し、生産効率と品質の両立を図ってきた。近年はAIを活用した見積もり作成ソフトの開発や、アジア初の新たな歯車加工技術「ギヤギャッシャー加工」を導入するなど研究を重ねている。

また、企業の持続的成長には人材が不可欠との考えから、人材育成や職場環境の整備に力を入れる。社員の若返りを図るほか、定着率の高い組織づくりを進め、高卒社員の離職率は過去10年間ゼロとなった。休日数の増加や女性活躍の推進にも取り組んでいる。

「人の力で未来をつくる」を掲げ、200年企業の実現を目指す。各社で歯車マイスターが減少していく中、しっかりと技能者育成を進めて「歯車の世界一のマイスター集団」となり、次世代への継承を続けていきたい。

新規会員企業講演

危機感を持ち挑戦重ねる



ユニコーンズホールディングス社長
金子 高一郎 氏

当社は来年で創業100周年を迎える。ルーツは1816年に先祖が営んでいた油樽回収業で、その後、祖父が1927年に金子商店を創業。製箱業を経て、車載関連事業へ進出するなど時代に合わせて事業を発展させてきた。25年、ユニコーンズホールディングスを設立し、新たな成長段階に入った。

代表就任後、企業理念や社是を再整理し、「もてなしのこころ」をグループの強みとおもてなしの中心に据えた。これは時代に沿った形でモノをつくるハード面と顧客に誠実に向き合うソフト面の両立を示す。グループでは製造、物流、販売、デジタルといった組織・機能を自社で抱え、横断的に組み合わせて顧客へ価値を提供する。近年は事業承継により加わった企業の技術も活用しながら、有機半導体ディスプレーを東京大学と共同開発するなど新分野にも挑戦。各事業会社が専門性を持ちつつ連携し、新たな価値創出につなげることがグループの強みだ。

4代目の社長だが、当社では「代々、皆が創業者だ」と言われる。各々が創業者精神を持ってチャレンジしてきた。長い歴史があっても過去を語るだけでは足りず、常に次の時代を見据えなければ、100周年を迎えられる保証はない。こうした危機感を持ちながら挑戦を重ね、200周年へと歩み続けたい。

第７回100年企業顕彰受賞企業講演

オンリーワン技術に一意専心



赤見製作所社長
赤見 昌子 氏

当社は創業102年を迎える工業炉メーカーだ。創業者である祖父は東京電力から独立し、日本初のジェラルミン溶解炉を開発。戦時中は零戦など軍事用品向けの炉を手掛け、戦後は日本の復興のために各地で炉の技術普及に尽力したと聞く。100年を超えて事業を継続できた背景には、社会の変化に応じて業炉などの熱処理に用いる工業炉を開発。付着抑制率がほぼ100%の独自炉は大手企業にも採用され、設備の安定稼働と製品の安定供給に貢献する。全長11㍍のラジアル炉など大型設備も手がける。創業時に培った技術が先端産業を支える技術へと発展している。

長い歴史の中で培われた技術基盤と創造力、難問解決へのあくなき追求心を土台としたオンリーワン技術への一意専心が当社の存在意義だ。少人数だが、一人ひとりが専門性を持つプロフェッショナル集団である仲間とともに、事業の継続と進化に挑み続けたい。

パネルディスカッション

地域や人とのつながり大切に

〈モデレーター〉
100年経営の会会長　北畑 隆生 氏

〈パネリスト〉
小名木川ギヤー社長　岩﨑 真和 氏
赤見製作所社長　赤見 昌子 氏
ユニコーンズホールディングス社長　金子 高一郎 氏



長寿企業の危機の乗り越え方などを話し合った

北畑　100年企業には必ず危機がある。どう乗り越え、挑戦を続けられたのか。

岩﨑　関東大震災、空襲で工場を二度失ったが、地域の人々が総出で助けてくれた。創業者は人の悪口を言わず、その人徳が支えとなった。その後、オイルショックやバブル崩壊時も取引先や同業者が率先して協力してくれた。人に報いる姿勢が危機克服の源となる。常に仁義を尽くすことを大切にしたい。

北畑　異業種での経験は現在の経営にどう生きているか。

赤見　アーティスト、大学教員として活動した後に事業を承継した。当初は経営や財務を学ばなければと考えたが、自分の強みは観察力や洞察力にあると気付いた。社員一人ひとりの能力や長所を見極め、それを本人に伝えることで社員が持つ力を引き出せる。その環境づくりが役割だと考えている。

岩﨑　三菱重工業で生産技術を学んだが、最も大きかったのは人との出会いで、優れた上司や仲間との経験は経営の支えとなっている。人とのつながりを大切にしたい。

金子　マクニカでの経験が生きている。退職後も仲間として助けてくれた。人の縁、そして日頃から築いた信頼関係が経営の力になると実感している。

北畑　創業家として経営を担う意味は。

赤見　創業者や先代が会社を大切に思う姿を見てきた。それは自然と受け継がれ、次の100年を見据え頑張ろうと覚悟を決めた。

金子　同族経営には覚悟を決められる強みがある。一方で、会社をさらに成長させるために社員を育成し、将来的には社員承継も視野に入ってくる。

あいさつ

長寿企業の知恵・経験学ぶ



100年経営の会 会長
北畑 隆生 氏

100年経営の会は東日本大震災が発生した2011年に経済産業省と日刊工業新聞社の呼びかけで発足した。関東大震災や太平洋戦争、石油ショックなど経営者の力だけではどうにもならない外部環境の変化を乗り越えてきた長寿企業の経験や知恵を学ぶことで、震災の危機を克服できるとの思いから始まった。現在も戦争や関税問題など経営を取り巻く不確実性は高まっている。日本の経営者、日本経済にヒントとなるような100年経営の秘訣を研究し、成果を発信して広めていきたい。

通常総会

優れた100年企業を顕彰

通常総会では、2025年度の事業活動と収支報告案を示した。事業活動については、「長寿企業に学ぶ持続可能な経営モデルとは」と題したシンポジウムを5月に大阪市で大阪産業人クラブと共催。7月には日本工業倶楽部会館（東京都千代田区）での総会後に同シンポジウムを開催した。創業の精神や理念の継続、イノベーションへの挑戦など長寿企業の魅力を発信するとともに、企業の長寿を目指す経営者、後継者にヒントを提供した。また、優れた長寿企業に光を当てる第7回「100年企業顕彰」（日刊工業新聞社共催、中小企業庁、日本商工会議所、全国商工会連合会後援）を実施した。最優秀企業に贈る経済産業大臣賞にマルト長谷川工作所（新潟県三条市）とユアサ商事（現YUASA）を選び、合わせて38社を表彰した。

26年度の事業計画案として、①長寿経営の理論化②長寿経営の価値の普及活動③会員間団体間の連携④海外の長寿企業や団体などとの連携⑤顕彰事業ーを挙げ、予算案とともに可決した。



26年度事業計画を可決した

続いて、役員交代と新規入会企業を紹介した。理事を務めた阪和興業（大阪市中央区）の古川弘成相談役が退任し、同社の中川洋一社長に交代。日刊工業新聞社の井水治博前社長は理事を退任。YUASA、鈴光商事（横浜市港北区）、山田商会（名古屋市熱田区）、ユニコーンズホールディングス（東京都葛飾区）が入会した。

会員企業募集中
（入会資格は、創業60年以上）
「長寿経営」を理論・体系化し、国内外に発信
100年経営の会
国内には創業100年を超える長寿企業が世界の半数を超える4万社以上あります。当会は、これら長期持続経営を新たな企業価値として体系化し、国内外に発信するとともに、長期持続経営を実践する企業や、それを目指す企業の交流の場として、日本経済の原動力となるべく活動しております。



100年経営の会 会長
（元経済産業省事務次官）北畑 隆生



■ 勉強会事業
■ 長寿企業の価値の普及活動（シンポジウムの開催・情報発信事業）
■ 100年企業の顕彰事業（経済産業省・中小企業庁との連携）
■ 海外長寿企業・団体との連携

お問合せ／お申込み先　100年経営の会事務局
〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1（日刊工業新聞社内）
TEL:03-5644-7608　E-mail:100nen@media.nikkan.co.jp